

2022年6月

2022年度  
四万十町地域イノベーター養成講座  
第3回 ビジュアルレポート

高知大学 地域協働学部  
コミュニティデザイン研究室

## 実施概要

- 日 時：令和4年6月25日（土） 13時00分～18時00分
- 会 場：四万十会館 多目的室
- 主 催：四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室
- 実施内容：「地域のために何かしたい」「起業をしてみたいけど、まだ勇気がない」「何をして良いのかわからない」そういった方々を対象に全5回の地域イノベーター養成講座を開催。  
一人ひとりが自分事として、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びの場。

### 【タイムライン】

Time	Theme	Contents
13:00-13:10	チェックイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己紹介</li> <li>• 今日の気持ちの発表</li> <li>• 最近のアクション紹介</li> </ul>
13:10-14:40	キーノートスピーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 創り出したい世界をデザインする/丑田俊輔氏</li> </ul>
14:50-16:20	レゴ®シリアスプレイ®	<ul style="list-style-type: none"> <li>• レゴ®シリアスプレイ®(以下、LSP)を活用した未来描写</li> </ul>
16:30-17:40	プロアクションカフェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コーラーの話を聞いて本当に自分のしたいことは何なのかを対話を通じて考え直す</li> </ul>
17:40-18:00	チェックアウト 次回の連絡	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本日の感想 次回予告</li> </ul>

# 開催概要

## 令和4年度 第6期生募集 地域イノベーター 養成講座

**自分と向き合い、  
仲間と共に一歩踏み出す**

四万十町では、何か新しいことを始めてみたい、地域のために何かしてみたい、という方などを対象に地域イノベーター養成講座を開催しています。アイデア実現のための仲間づくりと学びの場を提供するだけでなく、やりたいことがまだない方やいろいろな学びを得たい方にもおすすめです。年齢や所属は問いませんので、お気軽にご応募ください。

主催：四万十町 協力：高知大学地域協働学部 コミュニティデザイン研究室

### 回覧

四万十  
ビジネスプラン  
コンテスト  
指定講座  
※特典  
一次審査免除



## スケジュール・内容

※時刻や内容は多少変更する可能性があります。あらかじめご了承ください

- 1** 4/23(土) 16:00~19:00 ~ 4/24(日) 10:00~12:00 **自分の想いを振り下げ、「本当にやりたいこと(will)」を見つけ出す**

自分のライフストーリーを振り返り、対話を通じて「本当にやりたいこと(will)」の種を見つけていきます。
- 2** 5/28(土) 13:00-18:00 **自分と紐づいたマイプロジェクトを描く**



**馬場 加奈子氏** (株式会社サクラッド代表取締役/NPO法人学生履修士協会理事長)

香川県生まれ、10年間、陸上競技に励み、高校3年時に内閣府で「はまなす団体」保険、生命保険会社勤務を経て、2010年に全国初の学生履修士店「さくらや」を起業。各種メディアに取り上げられ、「さくらや」の運営で地域の子育てで家庭を支援したいとの声で就任し、「さくらやパートナー」を募集開始。1日5時間・週4日営業でも成立つビジネスモデルが子育て中の皆さんも取り組みやすいと評判になり、北海道から沖縄まで全国に店舗を拡大。自分の経験を活かし、起業家SDGsをテーマとしたセミナー等で「地域共生ビジネス」を講演し、好評を博している。
- 3** 6/25(土) 13:00-18:00 **創り出したい世界をデザインする**



**丑田 俊輔氏** (ハバタク株式会社 代表取締役)

福島県会津若松市生まれ、慶応大学商学部在学中にプラットフォームサービス課の立ち上げに参画。公共施設をまちづくり拠点として再生する「ちよだプラットフォームスクエア」、日本IBMを経て、2010年にハバタクを創業。国内外に様々な教育事業を展開。2014年、秋田県五城目町に移住。田舎発起業者を育て「ドチャックン」、古民家を舞台に地域を繋ぐ「シェアビレッジ」、週休施設を選び格化する「たのめろびん」、住民参加型小学校建設「ふるふる学校」支援等を推進。2021年、共創型コミュニティプラットフォーム「Share Village」を公開。
- 4** 7/31(日) 13:00-18:00 **小さな一歩を踏み出してみる**



**鬼丸 美穂氏** (料理研究家/創業料理人)

北海道出身。大学卒業後、上京し、IT系の仕事に従事。2010年9月、「鬼丸食堂」として出張料理やケータリングを始める。同年11月より、満足した分だけ支払いいただく投げ銭形式の食堂イベントを都内各所で不定期に開催。おもてなしの価値を味わって体験した方自身が決める。お金以外の価値もあるもので支払うことも可能にする。これを目的とした実験的食堂イベント現在は東京都武蔵小金井市の「八方知人」にて、不定期開催。2016年10月より、東京・大手町で三宅地産が運営する「ラボ・フューチャー」(Lab Future: さんさんらば 未来)のキッチン・コネクターとして、キッチンを中心としたコミュニティの促進、イベント開催を推進。キッチン利用イベントのサポートを行う。テーマやゲストのストーリーに合わせて、地域の食材を使った郷土料理や世界各地の料理を再現することを得意とする料理研究家。
- 5** 8/27(土) 13:00-18:00 **最終報告会**

5か月間のアクションと気づきを共有します。

## 受講生の声

**坂山 陸さん**

全6回の講座では、様々な経歴の講師の方たちから、現場を経験されてきた人ならではの興味深い講義を聞くことができました。実際に行ってきた事例に沿って説明してくれるので、自分のプロジェクトの参考になると間違いないです！

**山本 由紀さん**

チャレンジすることが好きで、職場でいかせてもらったイノベーター講習でした。自分自身を俯瞰してみる、過去の自分と向き合う、初めてのことに戸惑いしました。プロジェクトどう進めればいいのか、半年の間でたくさん悩み考えました。大学生の若いパワーをもらい、受講生とたくさん語り、貴重な体験をすることができ、本当に参加して良かったです。

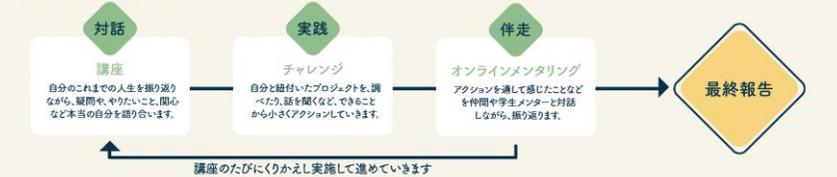
**正岡 千佳さん**

「自分のことが分からない」、講座当初はそんな自分にモヤモヤしていましたが、自身の生い立ちから現在までを振り返り共有していくことで、やりたいことや目標ができました。イノベーター講座は、本音で語り合える空間で今まで気付けなかった発見や、新たな自分に出会える機会だと思います。受けて損はないです！

**宮崎 寿地さん**

全国から来てくださる色々な経歴の講師の方の話を聞いて、自分のやりたいことの実現のために何をすべきなのか、何をやっているのかという話を知ることができました。また、学生メンバーとの毎回のミーティングを通じて軌道修正しながら、自分が何をやっていきたいのか、何をさせたいのかを考える、言葉にすることができました。

## 講座の流れ



- 募集人員 10名程度を予定
- 受講料 ① 町内に住所がある方… 5,000円 ② 町外に住所がある方… 10,000円
- 講師 高知大学 地域協働学部 須藤 順 先生
- 応募書類 右下のQRコードの応募フォームからご応募していただくか、エントリーシートに必要事項を記入して、下記のいずれかの方法でご応募ください。
  - ① 持参する場合は、人材育成推進センター、もしくは各地域振興局に**4月15日(金)**までに提出してください。
  - ② 郵送、メール、もしくはFAXで人材育成推進センターまでお送りください。なお、エントリーシートは、四万十町ホームページからもダウンロードできます。
- 受講資格 四万十町で活動する意思のある方、並びに、四万十町の資源を活用して活動する意思のある方で、原則として、全講座に参加できる方を対象としています。
- 受講料納付方法 受講料は、第1回目の講座の時にご持参ください。
- その他 講座内容や開催場所(四万十町内)等の詳細については、受講生のみにも通知いたします。
- 「四万十ビジネスプランコンテスト」への応募を検討されている方は、イノベーター養成講座を受講することで、長い時間をかけて自分のプランをじっくり考えることができます。また、指定講座のひとつとして、当該講座を受講することで、「**四万十ビジネスプランコンテスト**」1次審査が免除されます。
- サポーター制度: 当該講座を修了された方は、次年度以降サポーターとして、**無料**でご参加いただけます。

(注意) 各回の間に、具体的なアクション(調査など)を行っていただくことに加え、事務局および運営チームとの相談会を適宜開催し、プロジェクトの実現に向けたサポートを行います。

事務局

四万十町役場人材育成推進センター  
(担当: 横山 光一 吉村 愛)

〒786-8501  
高知県高岡郡四万十町神山3番7号  
E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp  
TEL 0880-22-3163  
FAX 0880-22-3345

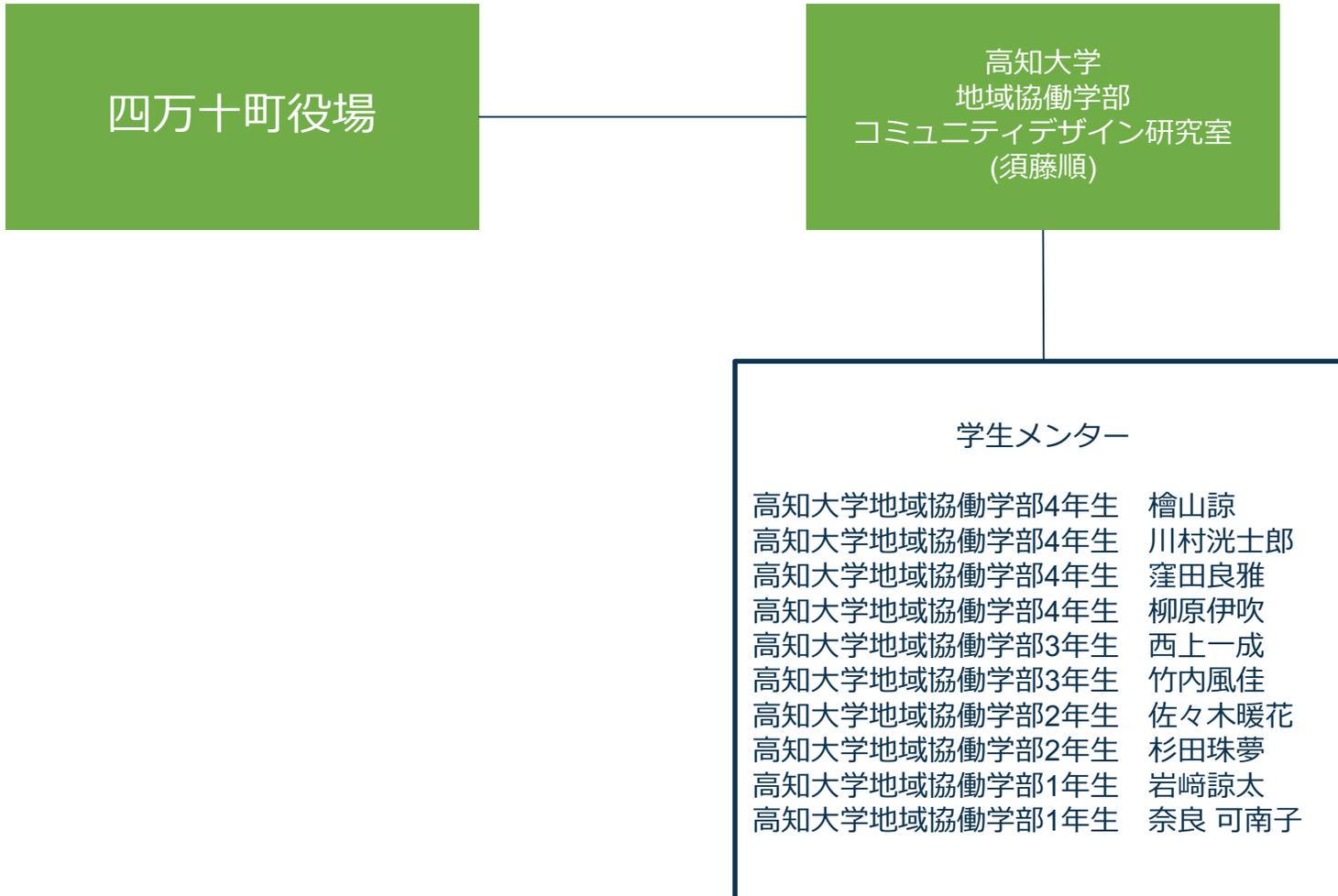
お申込みはこちら



## 令和4年度 地域イノベーター養成講座エントリーシート

氏名		フリガナ	
職業	電話	メールアドレス	
年齢	性別	住所	
あなたが現時点で思い描いているプロジェクトや、四万十町でやってみたいことがあればご記入ください。			

## 実施体制



**1人ひとりが自分事として、  
地域課題解決や活性化を目指す  
「チャレンジする人材」の学びの場**

## 目指すべきゴール

---

1

一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す

2

“ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す

3

ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

## 場のルール

---

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

## マイプロジェクトとは？

---

自分に基づいた (M y)

「何かを、プロジェクトの形にして (pjt) やってみる」  
ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

自らの経験の中から、  
自分のミッションを生み出していく

# マイプロで活用するシート

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日: 場所:
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ストーリー 昔 (小学校)	人生グラフ:横軸は年で、縦軸はイキイキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、読んでいた時を見える化しよう!	
(~中学・高校)	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
(~専門・大学)		
(~現在)		
今		
マイプロジェクトの源泉へ		

## ← me編シート

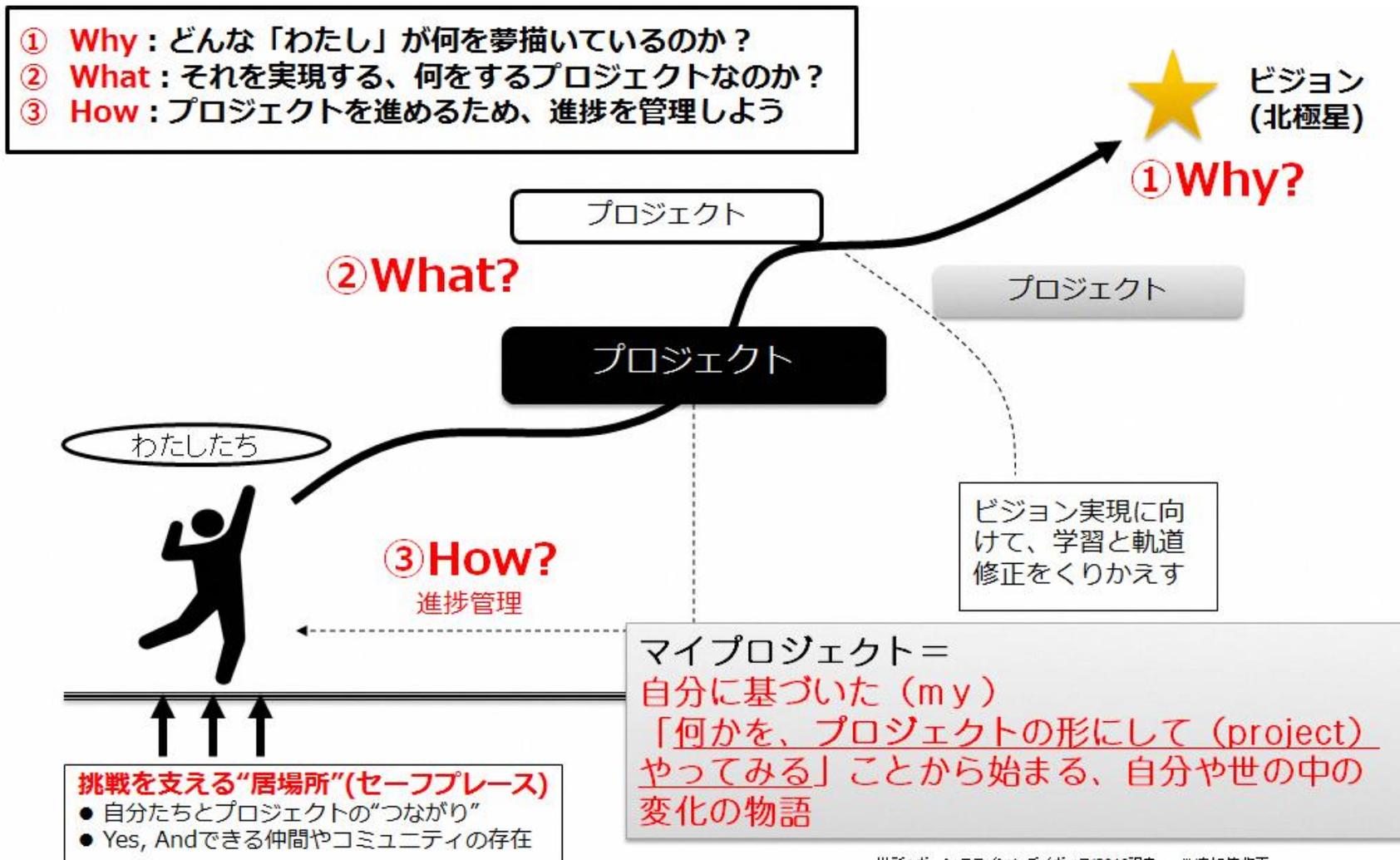
- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

## project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

PROJECT編	
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で!	
■実践したいプロジェクトの概要	
 	
■「やってみたい!」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか?

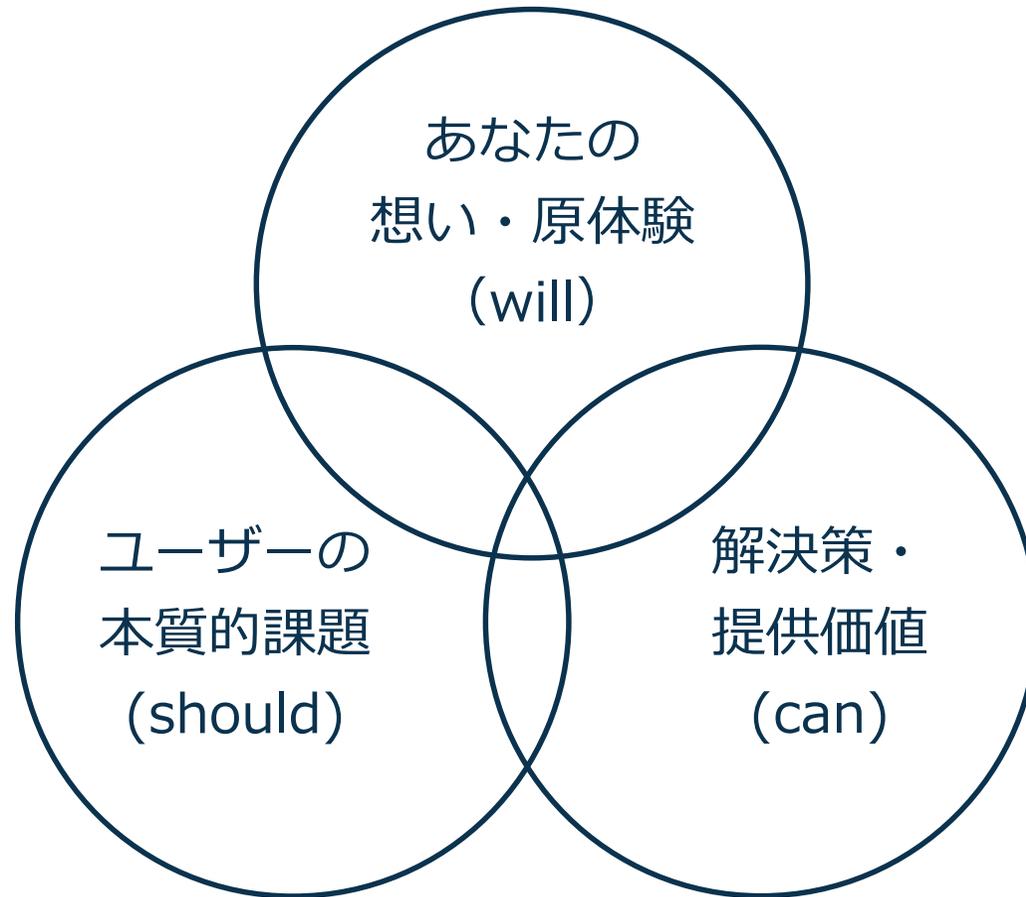
# マイプロが目指すイメージ



出所: ボーンSTEIN& デイヴィス(2010)訳書, p.104 追加筆修正  
 ※ 井上英文作成

# ポイント：徹底して自分のwillに向き合う

---



# 講座の様子



# チェックイン

まず最初に須藤から今回の講座の内容について説明を受けた後、一人ひとりが自己紹介、今日の気持ちと最近のアクションについての発表を行った。前回の講座から1ヶ月以上経過していたことや、初めて参加した人がいたことから「とても緊張する」といった声が多く聞かれた。そのような中でも、自然と笑い声が生まれるなど和気あいあいとした雰囲気の中で講座をスタートすることができた。



講座について説明する様子



チェックインの様子



講座について説明する様子



チェックインの様子



説明を聞く様子



チェックインの様子

# キーノートスピーチ

キーノートスピーチでは、丑田俊輔氏より「一創り出したい世界をデザインするー」についての講義が行われた。

## 丑田俊輔（ハバタク株式会社 代表取締役）

公共施設をまちづくり拠点として再生する「ちよだプラットフォームスクウェア」、日本IBMを経て、2010年にハバタクを創業、国内外を舞台に様々な教育事業を展開。

2014年、秋田県五城目町に移住。

田舎発起家を育む「ドチャベン」、古民家を舞台に地域を繋ぐ「シェアビレッジ」、遊休施設を遊び場化する「ただのあそび場」、住民参加型小学校建設「越える学校」支援等を推進。

2021年、共創型コミュニティプラットフォーム「Share Village」を公開。

## ◆五城目町

秋田県に位置する五城目町は、人口1万人の中山間地域であり、里山の暮らしや風景が残っている場所である。世界遺産や目立った特産物、カリスマ性のある人が居るわけではないが、住民の力でコツコツと積み重ねてきた結果、少しずつ変化が起り始めている。丑田氏は「住んでいると町が当たり前になってしまう」と述べ、ここ1年で当たり前になった事柄を振り返りながら話をしてきた。振り返りの中では、人とのつながり、ローカルに転がっている物を探しながら活動を行ってきた事実が見えてきた。

## ◆遊び・学び続ける町：「ただのあそび場」

丑田氏は子どもから大人までが「遊び」を大切にしていくことを念頭において活動しており、「遊び」の中から「学び」を生み出しそうとしている。学校の統廃合により、学校帰りに友達と外で遊んでいる子ども達の姿を見ることが少なくなったことに気づいた丑田氏は、町にある空き家などを利用して、子どもから大人までが「タダ」で集うことができる場を作った。その場の制作に関しては、有志が自主的に行っただけでなく、完成後も近くに住む人が遊具を設置するなど、自由にみんなで空間を作っていた。この場は学童保育としての役割や学校との連携も行うようになり、親が安心してその場に子どもを預け、そこにある商店街で買い物をすることで、商店街の活性化にも繋がった。子ども達が自分たちで規律を作り、共に工夫し合いながら遊ぶ姿が印象的である。

## ◆都会と田舎のシェア・学び合い：「Share Village」

住民票がなくても田舎に関わってみたいといった人を募り、一つの共同体として形成したのがShare Villageである。年貢として会費を納めることで、村民として寄り合いと名付けられた茅葺の葺き替え活動や、一揆と呼ばれるイベントに参加することができる。都会にも田舎にも違いはなく、それぞれに豊かさはあるという考え方をもち、新しい関わり方、共同体の形を創造している。



講演をする丑田氏



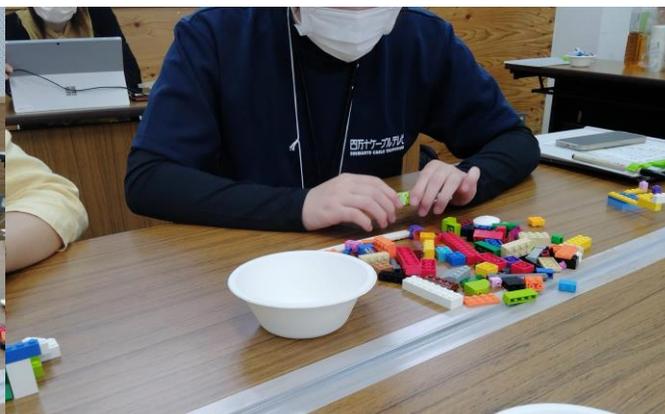
丑田氏の話聞く受講生

# レゴ®シリアスプレイ®ワーク

レゴ® シリアスプレイ® ワークでは、提示されるテーマにしたがって作品を作成していった。1つ目のテーマは「これまでの人生を振り返り、自分が最も影響を受けた出来事」について作品を作成した。これまでの人生を振り返りながら、このような思い出もあったと懐かしむ様子も見られた。2つ目のテーマは「本当の自分だと思える瞬間」であった。本当の自分とは何なんだろうと、難しいテーマに少し苦戦しながらも、とにかく手を動かし、作品を形にしていった。どちらのテーマに対しても、完成した作品をもとに丁寧に自分の経験を語る姿が印象的であった。



作品の説明をし、それに耳を傾ける様子



作品を作る様子



それぞれ作品作りに集中する様子



班で作品を共有する様子



作品を説明する様子



班で作品を共有する様子

# プロアクションカフェ

プロジェクトを前進させたい人（コーラー）と支援する人（サポーター）に分かれ、コーラーの持つプロジェクトについて、お題をテーマに対話を行なった。対話は3ラウンドに分けて行われ、「そのプロジェクトの深いところにあるやりたいこと」、「プロジェクトを進めるにあたって足りないもの」、「今からできるファーストアクション」という3つのテーマについて対話を行なった。それぞれのラウンドで対話が終わった後は、コーラーとサポーターに分かれ、各自リフレクションを行った。コーラーは自分の思いを話すと同時に、サポーターからの言葉でプロジェクトや自分の本質について向き合う機会となった。



コーラーの話聞く様子



コーラーの話メモする様子



サポーターの休憩時間



情報整理の時間（コーラー）



コーラーの話聞く様子



オンラインでの様子

# マイプロの進め方

---

① マイプロシート(me&pjt編)をみんなの前でシェア



② みんなからフィードバック



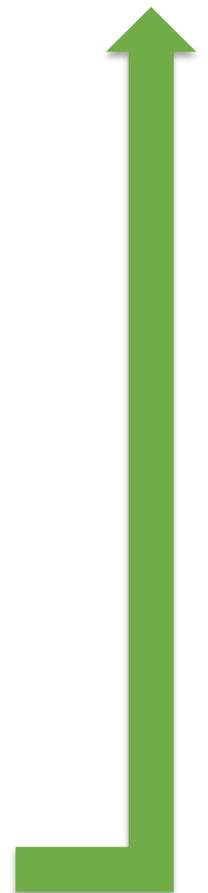
③ プレゼントカードを書いて渡す



④ アクションを試してみる

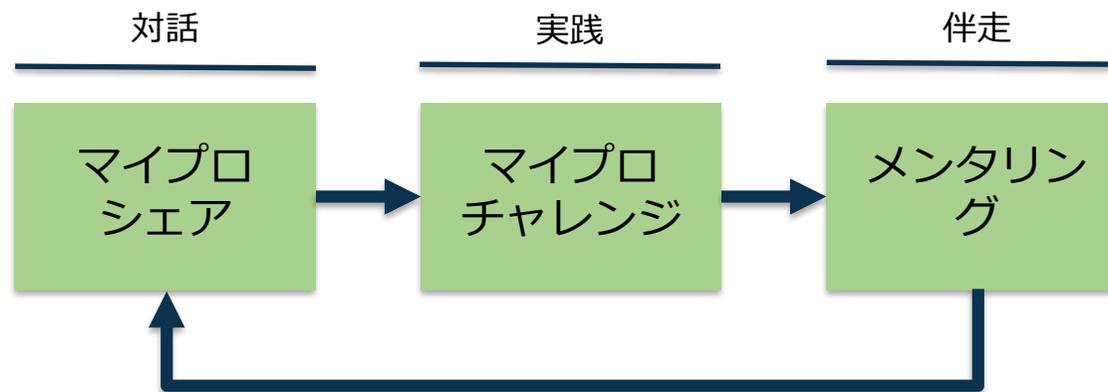


⑤ 気づきを踏まえてシートを書き換える



※みんなで支え合いながら、  
このサイクルを超高速で回していく

## 四万十町地域イノベーター養成講座のプロセス



- 四万十町地域イノベーター養成講座は、誰かが知識や方法論を教えるのではなく、受講生一人ひとりと大学生メンターと一緒にマイプロジェクトを進め、喜びや悩み、想いを共有しながら一歩ずつ前に進んでいくことを目指します。
- 対話を通じて一人ひとりのマイプロを共有し、一人ひとりが小さな実践を行い、それを受講生と大学生が相互にメンタリングを行いながら、「本当に自分がやりたいこと」に取り組んでいきます。
- こうしたプロセスを通じて「ジブンゴトをミンナゴト」にしていくための一人ひとりに法則を見つけ出していきます。
- 地域にイノベーションを起こすためには知識や方法論、メソッドはもちろん、本当に自分がやりたいこと、気になることを、仲間とともに小さな一歩を進めることから始まる、というのが私たちの基本的な考えとして講座を進めていきます。

## 問い合わせ先

---

四万十町役場 人材育成推進センター

担当：横山 光一・吉村 愛

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123

E-mail [103060@town.shimanto.lg.jp](mailto:103060@town.shimanto.lg.jp)

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：准教授 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail [j.suto@kochi-u.ac.jp](mailto:j.suto@kochi-u.ac.jp)

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。